

東海村産業部農業政策課インターンシップを通して



【はじめに】

今回、東海村産業部農業政策課のインターンシップ『エンジョイサマースクール「目指せ!クロマツ博士&砂防林マスター」』における3日間の業務体験に参加しました。

私はインターンシップの経験はごくわずかで臨んだ今回のインターンシップであり、最初は雰囲気も想定がつかず不安ばかりでしたが、農業政策課の皆様の暖かいお出迎えにより安心してインターンシップに臨むことができました。

インターンシップ開始前に家で、小学生向け副読本「のびゆく東海」を探し出し、砂防林の歴史と概要についてのページを読み少し予習したつもりになっていましたが、1日目の午前中の座学で学んだ砂防林の歴史と概要も、現状の松枯れもリジェネプロジェクト(私の「のびゆく東海」は2013年版で、松枯れが本格化したのはここ10年程度とのことなので当然載っていません)も知らないことだらけで、今回のエンジョイサマースクールの業務補助に必要な予備知識はほぼ皆無に近く、「本当に当日大丈夫だろうか」と心配になっていました。しかし、農業政策課の皆様の手厚いご指導により前日の準備と当日の活動を行えたことを感謝申し上げます。

【エンジョイサマースクール「目指せ!クロマツ博士&砂防林マスター」当日】

まず、前日に各課からお借りした機材等を会場の提供をしていただいた村松虚空蔵堂の講堂に運び込み、講堂における座学の会場設営を行いました。テーブルの設置においては、参加者ができるだけスクリーンを見やすくするための工夫をするのが難しかったです。



会場準備後、開始前の様子

講堂での座学において私たちインターンシップ生は、「マツノマダラカミキリ」の実物を参加者に回す作業を行いました。その業務において、担当職員によるスライドの講義の最中に、私に対し質問を投げかけた小学生の参加者がいました。本来私はここで、講義に集中を向けるよう対処できればよりよかったと思います。



担当職員による講義の様子

座学の後、行程はクロマツ林の散策と現地解説に移りました。私は、旗を持って担当職員とともに列の先頭に立ち、参加者の誘導を行いました。前日は必要事項の解説を聞きながらの事前の下見を行いました。当日は、小学生たちの気づきや活発な質問を受けながらの散策で、前日気づかなかったことへの気づきがとても多くありました。前日に私が散策前に担当職員に質問させていただいた、先駆樹種であるクロマツ林がなぜ樹種の遷移を起こさないのかという疑問に関連する話題で、私が前日理由だけ聞き納得して思考停止し、散策中に気づかなかった、一部の砂防林が雑木林に遷移しているということに気づいていたのは本当に撃ち抜かれた感覚でした。小学生たちは想像以上のとても鋭い視点と好奇心を持っていて驚かされました。



砂防林造成の碑での解説の様子

「砂防林造成の碑」についての解説の後、一行で「村松晴嵐の碑」へ向かいました。ここでは、私が解説をすることとなり緊張しながらも解説を行いました。

事前に担当職員より解説内容は提供されていましたが、小学生たちが飽きずに興味を持ってくれるような解説をするために、村のホームページを利用して情報を追加したり、問いかけを入れ込んだり、利用したり、生成 AI (ChatGPT) に構成のアドバイスをを受けたりしながら準備とシミュレーションを行いました。

しかし、いざ本番となるとなかなかシミュレーション通りとはいかなかった上、少し暴走気味になったり混乱したりしてしまいました。ただ、小学生たちに対する問いかけは想定した通り良い反応を得ることができました。(写真は次ページ)



村松晴嵐の碑前で解説の様子

その後、令和7年2月、令和8年2月に植樹されたクロマツを見て、近くのあずまやにおいて担当職員により、マツノマダラカミキリを媒介したマツノザイセンチュウによる松枯れの詳細なメカニズムと予防方法についての解説を受けました。ここにおいても小学生たちの鋭い視点を感じました。

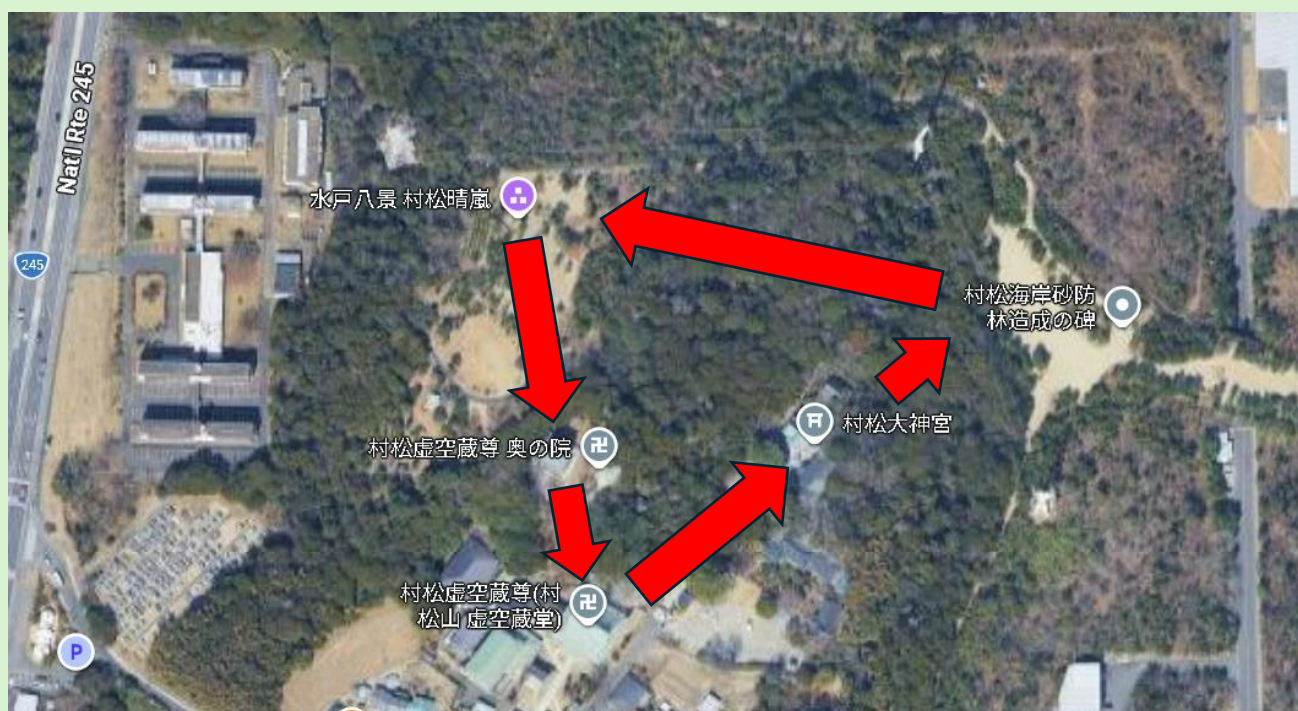


松枯れの詳細なメカニズムの解説の様子

続いて、行程すべてを通してのクイズが行われました。担当職員が「全問正解はさせまい」との心意気で作成されたクイズでしたが、あっさり正解していて、小学生たちの意欲には驚きました。



クイズの様子 参加者の挙手は難易度が上がっても自信满满



行程マップ

【エンジョイサマースクール全体を通して】

今回、農業政策課の皆様の手厚いサポートを受けて、無事にエンジョイサマースクールを成功させることに少しでも協力できてよかったと感じています。私も小学生の頃にエンジョイサマースクールに参加させていただいていましたが、その開催には各所の協力あってこそのものであったのだと感慨深い思いでした。

また、担当職員がおっしゃっていた通り、小学生の感性や能力、意欲や好奇心がすごいというのは想像以上のものであって驚きました。

エンジョイサマースクールだけでなく、インターンシップ全体を通じて、様々な連携・協力なしでは何事も業務はうまくいかないし、また、ひとりひとりが、「自分一人くらいいなくてもどうにかなる」というフリーライダー的態度ではなく、自身が重要な構成要素だという自覚があってこそ事が成功するのだと学ぶことができました。これからの就活、そして就職後も今回提供していただいた経験が生かせればなと思います。